



### ■ 会長挨拶 平林辰夫君

最後の会長挨拶を迎えることができました。今回も季節の話題から入りたいと思います。水無月を迎えました。五日は芒種、十日が入梅です。今年の梅雨入りは、11日となりました。梅雨の季節となりましたが、この梅雨がなければ自然は夏に向かって準備を終えることができません。季節の変わり目は、自然にとりましても人間が「間」を上手にとるように、「間」をとりもっております。そうしたことから雨を慈雨と思うと太陽の輝きが待ち遠しくなるのです。さて、日本人は古くより自然と共にありました。自然がすべてという生き方をしてきました。山紫水明、そして気候にも恵まれた島国です。四季、春夏秋冬の変化、そして季節ごとに移り替わる自然の景は美意識を養ってきました。「美空の花を星といひわが世の星を花といふ」と、土井晩秋が詩集『天地有情』の中の「星と花」という詩で詠んでいます。この詩の意味は、星と花を単に結び付けたものではなく、天地四方の広大な思想を含んでいるのだそうです。春には花が咲き、山々が萌える。夏にはホトギスや蝉の声、そして躍る山。秋には月や秋草が、また、山は錦で飾られ目を奪われる。冬は寒々とした中にも暖炉に火が燃え、雪で覆われた山は黙している。あらゆるところに清水が湧き、五穀豊穰に恵まれる。地震や山の噴火など天変地異はあっても、人々は清潔にゆったりと暮らすことができる。この恵まれた風土に私たちは生まれ、育ってきたのです。だからこそ、ともに一つになろうと、お互い譲り合い、助け合いを大事にしてきました。これが我が国の在り方でした。ところが、降ってわいたような新型コロナウイルスの感染症禍により、そのような人々の在り方が、根底から問われる状況となりました。不要不急のものを自粛する流れが当然のこととなり、このような流れの中不自由な生活を強いられたことは言うまでもありません。しかし不要不急なものの中には、それによって彩がくわえられ、日常を豊かにしてくれるものがあります。この現状に足元をすくわれることなくしっかりと大地に足を付けてこの国難を乗り切りましょう。心の「間」を取り、余裕を持つようにという天の声が聞こえます。1年間を通して、納涼会、サッカー観戦例会、クリスマス忘年会等、多くの家族の皆様に参加ご協力をいただきました。家族の皆様にご感謝申し上げます。小松幹事をはじめ、代田副会長、会計、SAAそして事務局の皆様のご協力を得て、何とか1年間を全うすることができました。本当にありがとうございました。併せて各委員長、ほか会員諸兄の御協力に心より感謝申し上げます。最後に1年間会長挨拶のヒントさがし、協力してくれました妻に感謝の言葉を送りたいと思います。1年間ありがとうございました。

■ お客様 前ホテル紅や 代表取締役社長 加藤 建二 様・ご家族様  
ホテル紅や 代表取締役社長 栗原 等 様(7月1日より入会予定)

### ■ 理事会報告・幹事報告 小松賢三君

- 本日の例会は、平林年度最終例会「家族に感謝例会・さよならパーティー」となります。
- 6月9日(火)に次年度の理事会が開催されました。
- 今後の予定
  - 6月19日(金) 諏訪グループ会長幹事会
  - 6月23日(火) 指定休日 次年度諏訪グループ会長・幹事会
  - 6月30日(火) 指定休日

### ■ 出席報告・ニコニコBOX 出席 44名(122%) ニコニコBOX 大勢の方より 45,000円

1年間、会員の皆様、ご家族の皆様の  
ご支援、ご協力誠にありがとうございました。

会長 平林辰夫

幹事 小松賢三

